

蒲生干潟の地形変遷 (3)

■概要

No.19で七北田川河口が閉塞したことを報告した直後、9月21日の台風により、河口付近は洪水の被害に見舞われた。また、砂州の一部が決壊し、かつての流路であった潟湖が再び河道に変化し、七北田川には新たな河口が誕生した。

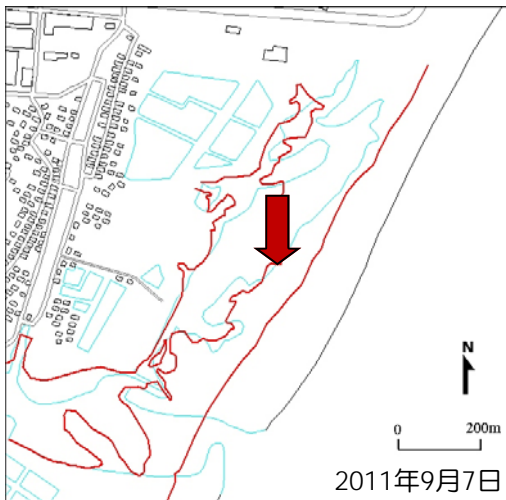


Fig.1 9月7日のトレース。矢印は新河口位置



Fig.2 蒲生干潟の空中写真 a;津波直後(国土地理院) b;9/21の台風直後(河北新報)。矢印は新河口位置。

20日0時~22日6時までの仙台での降水量は318mmにおよび(仙台管区气象台)、震災により地盤沈下の影響を被った地域で、冠水などの被害が見られた。七北田川も例外ではなく、河口右岸に設置された仮設堤防、貞山運河の堤防が決壊し、360haが冠水した(宮城県)。増水した七北田川は旧河口に出口を求めず、潟湖を流路として利用し、砂州を侵食して新たな河口を形成することとなった。

10月11日のトレース(Fig.2)からわかるように、新しい七北田川は左に大きく蛇行している。そのため、左岸の潟湖平底の面積が増え、河口干潟が形成され、これを侵食し、貯水池から潟湖に流れ込むチャンネルが形成されている(Fig.4)。



Fig.3 10月11日のトレース。



Fig.4 潟湖平底と貯水池から続くチャンネル。

■課題

河口閉塞時、七北田川が貞山運河を河口として利用していることは、No.19で報告した。今回の堤防の決壊と新河口の形成要因は、貞山運河が増水した七北田川の水量をさばききれなかったことによるところが大きい。しかし、震災前の河道の導流堤が残っているにもかかわらず、閉塞した河口を使わず、河道を潟湖に求めた理由は定かでない。台風の波浪による砂州の弱帯の侵食による開口などの原因が考えられるが、今後の地形変遷をふまえながら、考えていきたい。

(西城光洋)